

○韓国側の資料カード

資料番号	K.III-9	資料名	石蘭図
 <p data-bbox="252 1081 719 1115">書画、紙本水墨、(縦×横) 75.5×28.0cm</p>			<p data-bbox="818 607 1437 741">1763年の通信使行の画員として日本へ行った金有声(1725～?)の作品である。作品の右下に「朝鮮西菴」と書かれており、「金有声印」という朱文方印があることから通信使行の時に描いたものと推定される。</p> <p data-bbox="818 741 1437 842">金有声は鄭敷派の真景山水画風を日本に伝える業に寄与した画家である。本作品もまた当時の日韓間の絵画交渉の実像を研究することに重要な意義がある。</p>
資料番号	K.III-10	資料名	鷹図
 <p data-bbox="252 2011 719 2045">書画、絹本水墨、(縦×横) 124.3×42.4cm</p>			<p data-bbox="818 1491 1437 1709">1811年の通信使行の画員の爾信李義養(1768～?)が残したと思われる作品である。作品の右上に‘朝鮮爾信’という款識と‘李義養印’という白文方印があり、時期と作家が推定できる。鷹は日本人の尚武的趣向に符合する素材であり、朝鮮の作家の鷹の絵が日本に多数伝わっている。</p> <p data-bbox="818 1709 1437 1816">朝鮮の書画家らが日本の要求や趣向に応じ多くの絵を日本に残したが、本作品もそのような状況がうかがえる品である。</p>